

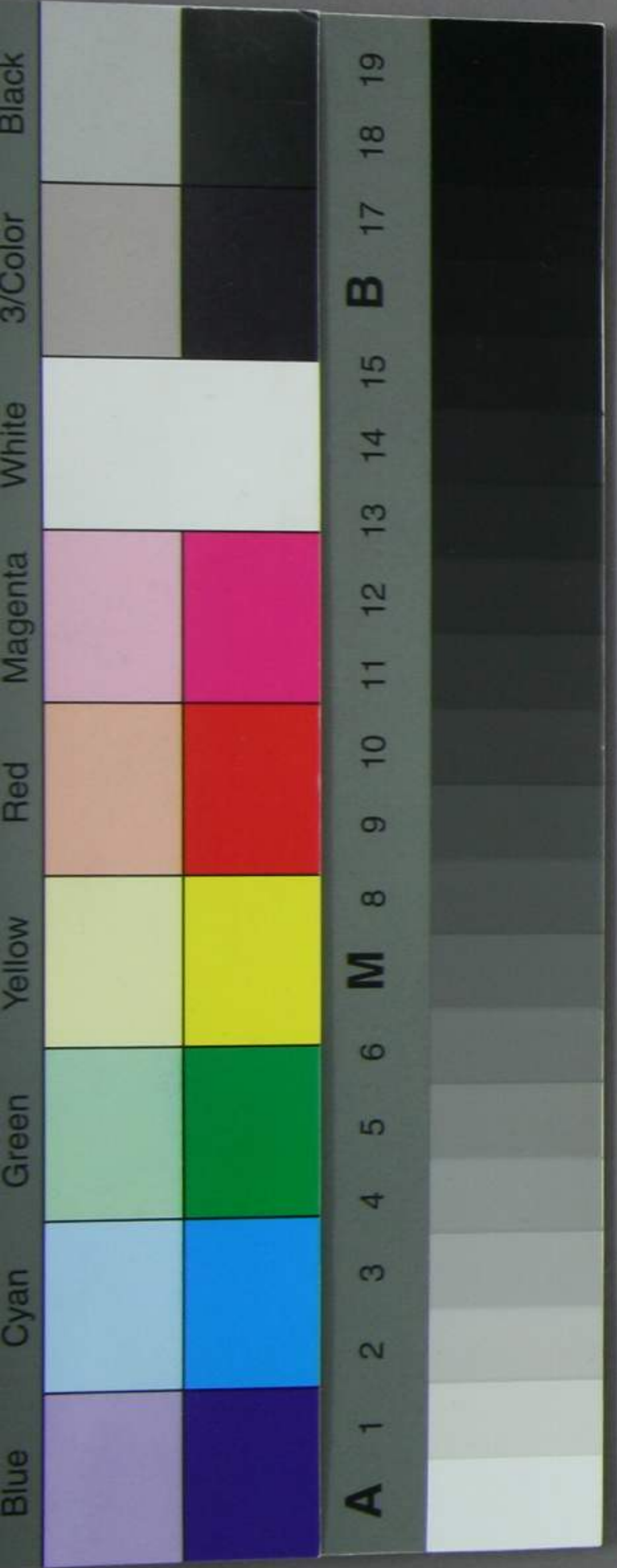
114
A4330
1



總第六百三十一號

大正十一年四月
陸軍省
大限
候爵
郵寄
別

新式銃同彈藥製造及銃器修理費別
御渡相成度儀ニ付上申
ヨリ還納品ノ内ヲ撰ニ修理ヲ加ヘ不取敢各隊
致支給置漸次製造所設立製出ノ見込ニテ夫々
致着手置候要當春來賊徒征討ノ即從來貯蓄
之物品ハ不残支出シ彈藥ハ消費銃器ハ多分致破
損候尤右銃器モ過半ハ是迄改正或ハ修理ヲ施候
品ニテ將來久シキニ可耐品ニ無之候間即今ヨリ新式
銃同彈藥製造ニ着手不致候テハ向來ノ換給ニ
於テ忽差支候且又即今所用ノ銃器モ早々修理
不相加候テハ現場已ニ差支居候然ルニ當省定



額金ノ儀ハ先年来度々御減省有之尚又今般
 百分ノ五御減却相成候ニ就テハ右等ノ入費ニ可
 充金員更ニ無之候條新式銃同彈藥製造及ヒ
 銃器修理費トシテ来明治十一年度ヨリ向キ十
 年間毎年金貳拾八萬貳千五百圓宛別途御渡
 相成度此段及上申候也
 明治十年十二月

陸軍卿山縣有朋

太政大臣三條實美殿

新式銃同彈藥製造及ヒ下ル銃修理費

一年間製造高	十年間製造高	一年間費額	十年間費額	一個ノ價
新式銃製造費	一 万 枝	十 万 枝	十二 万 円	百二十 万 円
全彈藥製造費	五百六十 万 円	五十六 万 円	十四 万 円	百四十 万 円
下ル銃修理費	五 千 枝	五 万 枝	二万二千 五百 円	二十二 万 五千 円
一年費額	二十八 万 二千 五百 円			四 万 九 千 五 百 円
十年費額	二百八十二 万 五千 円			
全額製造及ヒ建築費			三十二 万 円	

考 備

初年度ノ合計ハ建築費ノ三十二 万 円ヲ
 加ニ六十 万 二千 五百 円ナリ

備考

一新式銃製造費ハ其材料ニ四円工銀ニ八円合シテ拾貳円ノ概算ナリ

一新銃需用ノ彈藥ハ一ヶ年一千万発ヲ製造スルニアラサレハ該銃拾万挺落成ノ期^{十年}ニ至リ一挺ニ千発宛即チ一億万発ヲ備フル能ハスト^{虫氏}現今ノ常備兵及ヒ諸學校生徒等銃ヲ使用スルモノ概子之ヲ五万人ト見做シ此現人負ニ應シ彈藥ノ數畧其半ヲ減シ五千六百万トナス片八年々ノ製造高五百六拾万発ナリ而シテ銃彈藥共成功ノ後ハ毎歳射的用ニ消耗スル大畧五百萬発ヲ製造シ其欠數ヲ補フ之レヲ則チ十年後ノ製造數ト假定ス

一修理費ハ新式銃成功ノ期マテ十年間常備後備兵ノ携持スヘキ銃ヲ或ハ修理シ或ハ改造シ以テ支給ニ供ス

一新式銃製造ハ創業ニシテ工人未タ習熟セサレハ或ハ

最初ノ一ニケ年ノ費額ニ多少ノ残余ヲ生スルナキヲ保
シ難シ然リト雖モ最尾ニ至リ工人熟達スル片ハ年額
ヲ或ハ超過スルコトアルベシ故ニ之ヲ平均シ年額ヲ概算
セシモノナリ